今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇1月1日～

2022年、2023年とドル／円は150円を超える高値をつけてますが今年の為替相場は円安の動きに変化が出るでしょうか。
今週は、1日は New Year's Day で日本も元旦ですがほとんどの国が休場となります。
昨年は、年末にかけて米国株などが強い動きで終わっていますが年明けからの動きが気になります。12月のFOMCで思っていた以上にFRBがハト派（金融緩和に積極的）な姿勢を見せたことで、今年は米国がいつから利下げに動くかに注目が集まっています。
2024年は日米の金利差は縮小傾向になることは間違いなく、これは円高要因となります。
ただし、急激な円高になるとの予測は少なく、日本は東北の大地震以降は貿易黒字の額が減り続け、構造的に2010年頃のような極端な円高にはなりにくい状況に変わってきています。
日本の貿易黒字は円高要因ですが経常黒字は、円高要因とはなりにくく、緩やかな円高との見方が強まっています。
どのあたりまでの円高になるかはわかりませんが150円を超える円安よりは、140円を割り込む円高の動きが出るかどうかを注視したいです。
また、為替相場では、ドル／円の8年サイクルというものが知られており、2007年の124円のピーク、2015年の125円のピークというようにほぼ8年ごとに円安のピークが来るというサイクルです。このサイクルから考えると2023年がピークとなるので、151円がピークとなるかどうかも気になります。
そして、年初から株価が崩れる動きが出る年は意外に多く、今年も年末・年始で株価が一旦のピークをつける可能性も考えて、慎重に動きを見ていきたいです。
日本株では辰巳天井という相場格言があり、辰年や巳年に天井をつけることが多いと言われています。今年は辰年なので、今年、来年の日本株の動きにも注目したいです。
さらに、気になるニュースとしては、ベネズエラとガイアナ（旧英植民地）が地下資源を巡って、12月に入ってから緊張状態にあり、年末には英国の軍艦がガイアナに到着したとの情報があり、原油価格の動きなども注意がいります。
ベネズエラの裏にロシア・中国、ガイアナの裏に英国・米国というような構図です。
ガイアナは2015年に海底油田が発見されてから急速に経済成長しており、2024年は新たな地政学的リスクが高まる可能性もあります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

先週は 140円台前半まで値を下げる動きがありましたが140円割れは回避して、年末のマーケットは終わっています。
11月中旬に152円手前までいったところが天井となり、年末にかけてじわじわと円高の動きとなっています。
まだ明確に底打ち反転上昇の動きにはなっていないので、安値更新の動きに警戒しながらトレードしたいです。
下値は140円を割り込むと昨年7月安値の137円台あたりが意識されます。
上値は、143円を超えてくると上昇に勢いがつきそうです。

＜気になるクロス円＞

クロス円も年末にかけて、少し下げて終わっているペアが多く、年明けからの動きに注意したいです。
年初から下がる可能性もあるので、買う場合は、しばらく様子見が安全かもしれません。
カナダドルも米ドル同様、2022年、2023年に111円程度の高値をつけているので、動きに注目したいです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では特に重要指標の発表はありません。
米国では12月製造業PMI（改定値）、12月ISM製造業景況指数、11月雇用動態調査（JOLTS）求人件数、FOMC議事要旨、12月ADP雇用統計、前週分新規失業保険申請件数、12月サービス部門・総合PMI（改定値）、12月雇用統計、11月製造業新規受注、12月ISM非製造業景況指数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで12月製造業・サービス業PMI（改定値）、12月消費者物価指数、ユーロ圏で11月卸売物価指数、ドイツで11月小売売上高などがあります。
ほかには、中国で12月Caixin製造業PMI、英国で12月製造業・サービス業PMIの発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved